

糺勸進能

Tadasu Kanjin Noh

能

邯鄲

世界文化遺産の森で
世界文化遺産の能楽を

賀茂御祖神社では二千年前から遷宮が始まり、

令和八年（二〇三六）齋行の還宮にて第六十回目となります。

さらに後一条天皇の宣旨により遷宮の制度が二十年毎の式年として

第一回目が長元九年（一〇三六）四月十三日に齋行されてより、

第三十五回式年遷宮にて一千年の佳節となります。

「糺勸進能」は、糺森の未来への継承とともに、

芸能のひとつの原点ともいえる猿楽の再興をおして、

日本文化をもとに伝えていこうとするプロジェクトです。

神と人との間の、千年のいとなみを振り返り自然と文化のすがたを

もういちど見つめ直したいと考えています。

「糺能」は、「糺河原勸進猿楽」をもとに

「糺勸進能」として復興いたしました。

本年より次期式年遷宮までの間、

「糺勸進能」に名称を戻し催行いたします。



第三十五回式年遷宮御奉賛事業



Photography : Atsushi Hitomi

とき

令和八年 五月二十三日（土）午後六時二〇分
開場午後五時三〇分／終演午後八時（予定）

※屋外での上演、雨天決行となります。

ところ

賀茂御祖神社（下鴨神社）
舞殿（重要文化財）

京都市左京区下鴨泉川町五九

入場料

指定席 御生席 みあれ 三万円（重要文化財神服殿にて観劇）

葵席 二万円

桂席 一万円

自由席 糺席 前売一般五千元／前売学生二千元

※御生席、葵席、桂席は全席指定席、糺席は自由席エリアでの観劇となります。

※当日券は、当日空いている際は、指定・自由席とも各席千円アップで販売します。

※雨天時には、座席位置を調整させていただく場合がございます。

主催／下鴨神社糺能保存会

お問い合わせ／賀茂御祖神社 TEL:075-781-0010 / E-mail: support@tadasu-noh.jp / Website: https://tadasu-noh.jp

Website



第十一回 糺勸進能

ただすかんじんのう

弓神事

子方 樹下 應介

シテ 林喜右衛門

邯鄲

ワキツレ 有松 遼一

ワキ 原 大

ワキツレ 岡 充

ワキツレ 原 陸

アイ 茂山 逸平

大鼓 河村 凜太郎

太鼓 前川 光範

小鼓 大倉源次郎

笛 竹市 学

樹下 千慧

後見 味方 團

松野 浩行

地謡

大江 広祐

深野 貴彦

河村 晴道

田茂井 廣道

河村 和貴

演目について

自らの人生に悩む青年 盧生(ろせい)は、心の拠り所を求める旅の途上、邯鄲の里を訪れます。立ち寄った宿屋で、女主人(アイ)から不思議な枕を借りた盧生。実は、その枕はある仙術使いから貰ったもので、それで眠ると、わが身の進むべき道、未来について悟りを得られるというものでした。盧生は、早速、枕を使い眠りにつきます。すると、勅使と名乗る男(ワキ)に起こされ、帝位を盧生に譲ると告げられます。そのまま大臣たち(ワキツレ)の居並ぶ王宮に連れて行かれ、栄華の日々を過ごし不老長寿の酒で宴を開くなど、歓楽の限りを尽くします。盧生が即位し在位五十年の祝宴が催されるなか、盧生も舞を舞います。すると、突如として人々の姿は消え、彼は再び眠りに落ちてゆきます。彼が目覚めると、そこはもとの宿屋でした。栄華を極めたかのような出来事は、すべてこの枕が見せた夢。儂い無常の理を知った盧生は枕に感謝し、故郷へ帰ってゆくのでした。

お申込方法

1. 下鴨神社でチケットを購入

受付時間: 10:00~16:30

下鴨神社社務所にて代金(現金のみ)引き換えでチケットをお渡します。

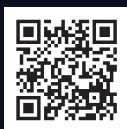
2. クレジットカードにて購入

申込〆切: 5月22日(金) 18:00まで

[Livepocket] <https://livepocket.jp/e/tadasukanjinnoh2026>

前売券完売の際は、その時点で販売終了となります。

こちらの予約はオンラインチケットになりますので、会場受付にてオンラインチケットをご提示ください。



会場へのアクセス

地下鉄 (乗り換え)

烏丸線「北大路」駅より市バス1・205番にて「下鴨神社前」下車

京阪電車

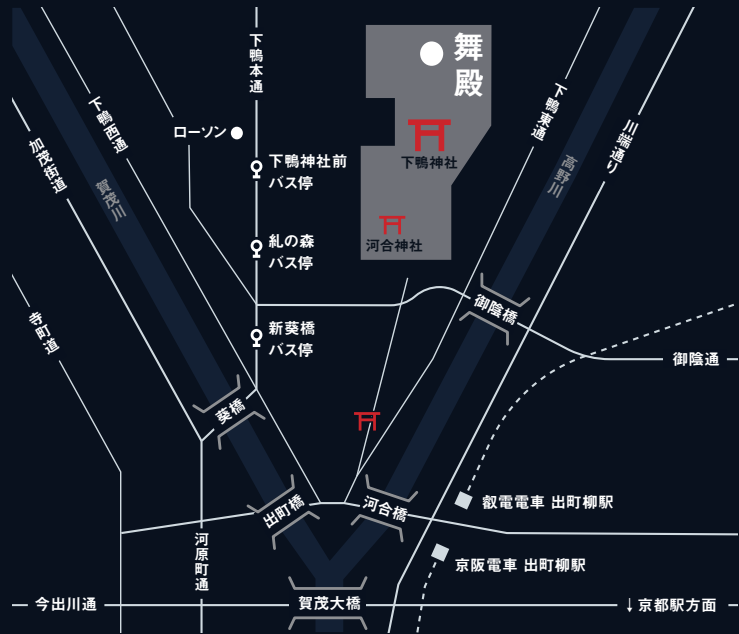
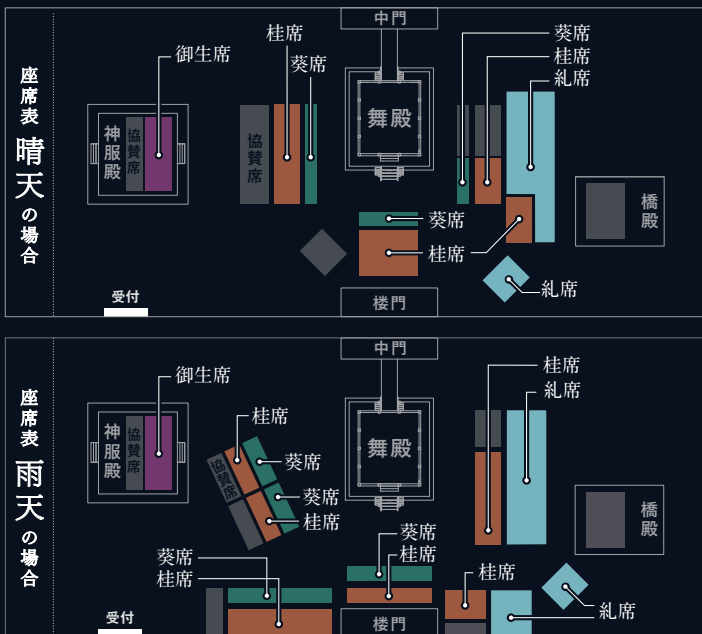
「出町柳」駅下車、7番出口より徒歩12分

阪急電車 (乗り換え)

「河原町」駅より徒歩で、京阪電車「祇園四条」駅より乗車 京阪電車「出町柳」駅下車、7番出口より徒歩12分

JR (乗り換え)

「京都」駅から奈良線に乗り継ぎ「東福寺」駅下車、京阪電車へ乗り換え「出町柳」駅下車、7番出口より徒歩12分



御協賛

「糺勸進能」は、糺の森の未来への継承とともに猿楽再興をとおして、日本文化を共に伝えていくプロジェクトです。多くの方々に知っていただき継続して運営していくために、ご協力をお願いいたします。



能の本舞台と鏡の間をつなぐ部分を橋掛かりといい、現在と異界をつなぐ役割を果たしています。「糺勸進能」では、未来へ向けて歳月を重ねながら式年遷宮へ向けての橋掛かりをつくる準備を始めていきます。



橋掛かり基金

※内容 配役は変更する場合がございます。